

米国 ～景気は“良好”～

経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

個人消費は強く国内需要を牽引

米国では、世界経済が減速しているにもかかわらず、緩やかな経済成長や堅調な雇用拡大が持続しており、景気は良好といえよう。

16年4-6月期の実質GDP成長率は前期比年率+1.1% (1-3月期同+0.8%)と在庫投資の減少によって、低い伸びとなった。しかし、個人消費が前期比年率+4.4%に加速し高い伸びだった結果、景気の基調を決める民間国内最終需要は前期比年率+3.0% (1-3月期同+1.1%)と強まった。

8月の雇用は堅調維持

景気が良好な中で、16年8月の非農業部門雇用者数は前月差+151千人(7月同+275千人)と6、7月の高い伸びの反動や8月の悪天候を背景に鈍化し、市場予想の同+180千人を下回った。これを受け、早期の利上げ期待が後退したが、非農業部門雇用者数の前月差151千人増は労働市場の逼迫度合いを強めるのに十分なペースである。また、8月は悪天候の影響を受け建設業などが一時的に下振れており、雇用の実態はヘッドラインの数字よりも良好といえる。さらに、FRBが注目する3ヵ月移動平均(6、7、8月)では、非農業部門雇用者数は前月差+232千人

(前月同+190千人)と加速した。より一時的な変動の影響を排除できる6ヵ月移動平均の非農業部門雇用者数(16年3月-16年8月)は前月差+175千人(前月同+189千人)と良好なペースを保っている。雇用は2000年代の不動産バブル期を上回るペースで拡大した後、完全雇用に近いなかでも堅調さを維持している。

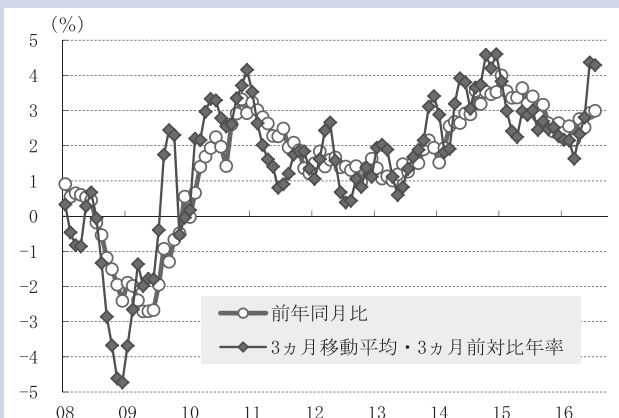
緩やかな成長が続く見込み

7-9月期は、7月も好調だった個人消費が雇用・所得の改善、金利の低下、株高、マインドの改善等により前期比年率+3%程度の高い伸びを維持するほか、住宅投資は販売の回復傾向や低い在庫率を背景に再び拡大し、民間国内最終需要の堅調が持続すると見込まれる。また、在庫投資は、4-6月期の反動から増加し、7-9月期の実質GDP成長率を大幅に押し上げると予想される。以上の結果、7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+3%程度の伸びに加速し、緩やかな経済成長が持続する可能性が高い。

こうした中、雇用は失業率が悪化しない水準とみられる前月差10万人増のペースを上回って推移すると予想され、米国経済は小幅の利上げに十分耐えられる状態になっていると判断される。

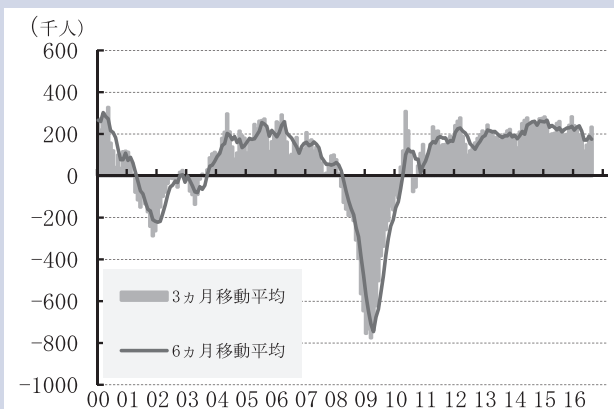
(9月6日執筆)

資料1 実質個人消費の推移



(出所)米商務省データより作成

資料2 米国非農業部門雇用者数(前月差)



(出所)米労働省データより作成